

# Intersight マネージドモードでのSANからのブートの設定

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[SANの設定](#)

[UCSドメインプロファイル](#)

[手順1:VSANポリシーを設定します。](#)

[ステップ2：ポートポリシーを設定します。](#)

[サーバプロファイル](#)

[ステップ3：サーバプロファイルを作成します。](#)

[ステップ4：ブート順序ポリシーの作成](#)

[ステップ5:SAN接続ポリシーを作成します。](#)

[手順6：ファイバチャネルネットワークポリシーを作成する。](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Intersight Managed Mode(IMM)で管理されるサーバでストレージエリアネットワーク(SAN)からのブートを設定する方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- SANトポロジに関する基礎知識
- Intersight マネージドモードのUCSサーバプロファイルに関する基本的な知識。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- UCS-FI-64108、ファームウェア4.2(1)
- UCSX-210C-M6、ファームウェア4.2(1)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このド

キュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 背景説明

この設定を行う前に、次の要件があることを確認してください。

- 仮想ストレージエリアネットワーク(VSAN)ID
- イニシエータおよびターゲットからのワールドワイドポート名(WWPN)
- 論理ユニット番号(LUN)ID

サーバおよびドメインプロファイルの設定、必要なポリシーおよびプールは次のとおりです。

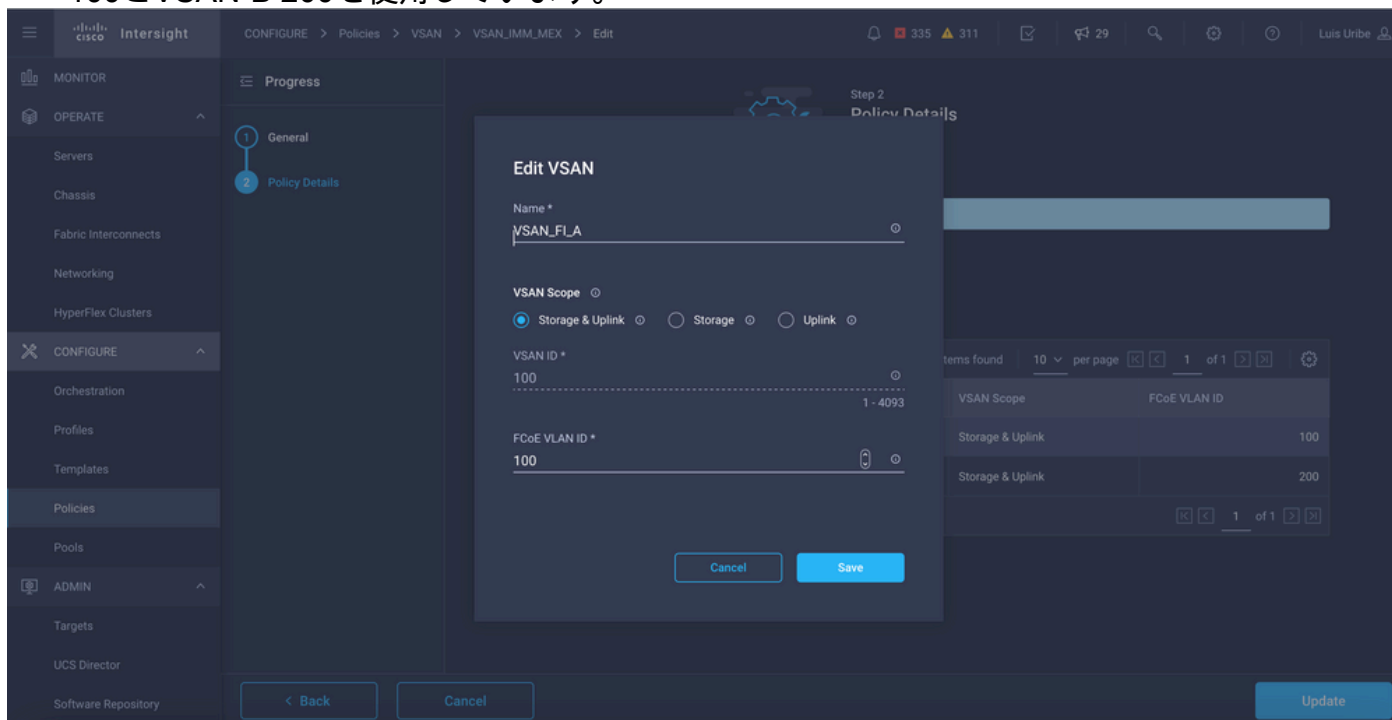
- VSANポリシー
- ポートポリシー
- ブート順序ポリシー
- SAN接続ポリシー
- WWPNプール

## SANの設定

### UCSドメインプロファイル

手順1:VSANポリシーを設定する。

- [Policies] > [Create Policy] に移動し、[VSAN] を選択します。
- ポリシーに名前を付け、必要なVSANを追加します。この例では、図に示すようにVSAN-A 100とVSAN-B 200を使用しています。

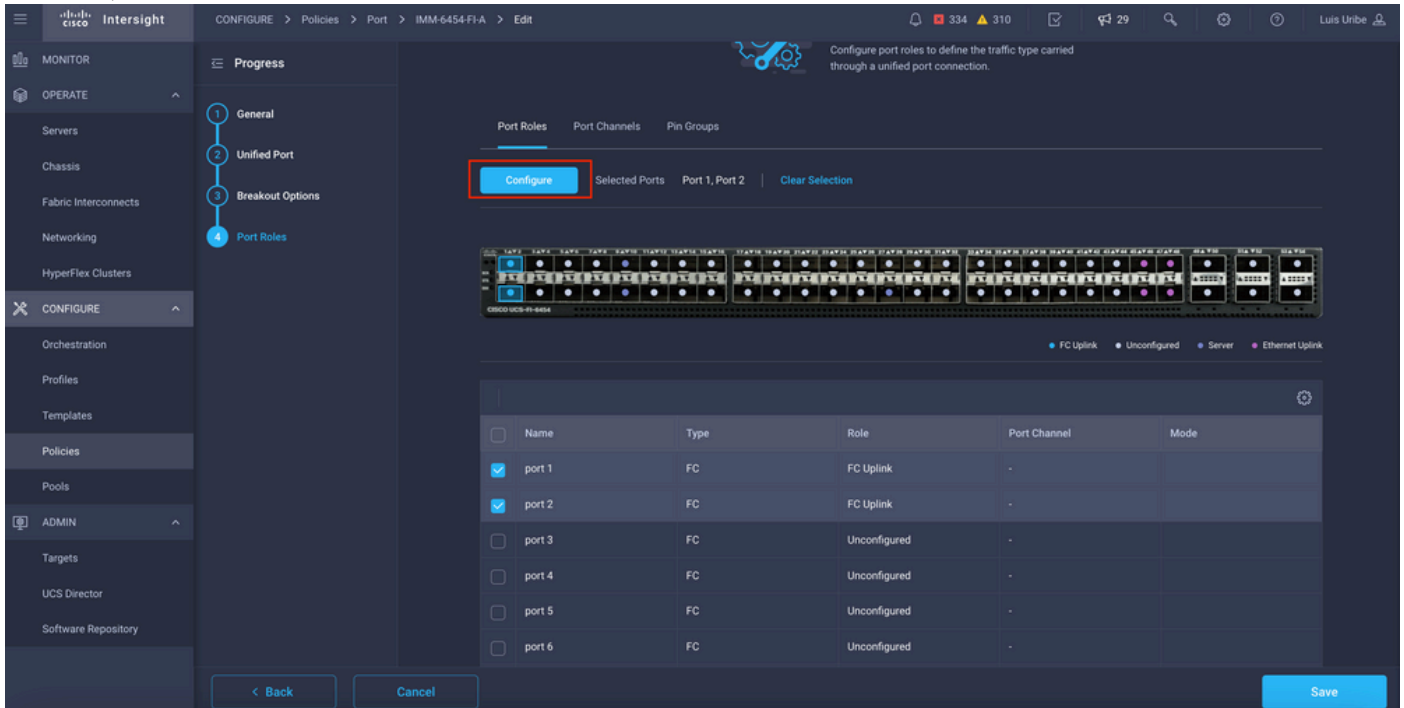


注：ファイバチャネル(FC)ゾーンポリシーが設定されると、ストレージオプションが有効に

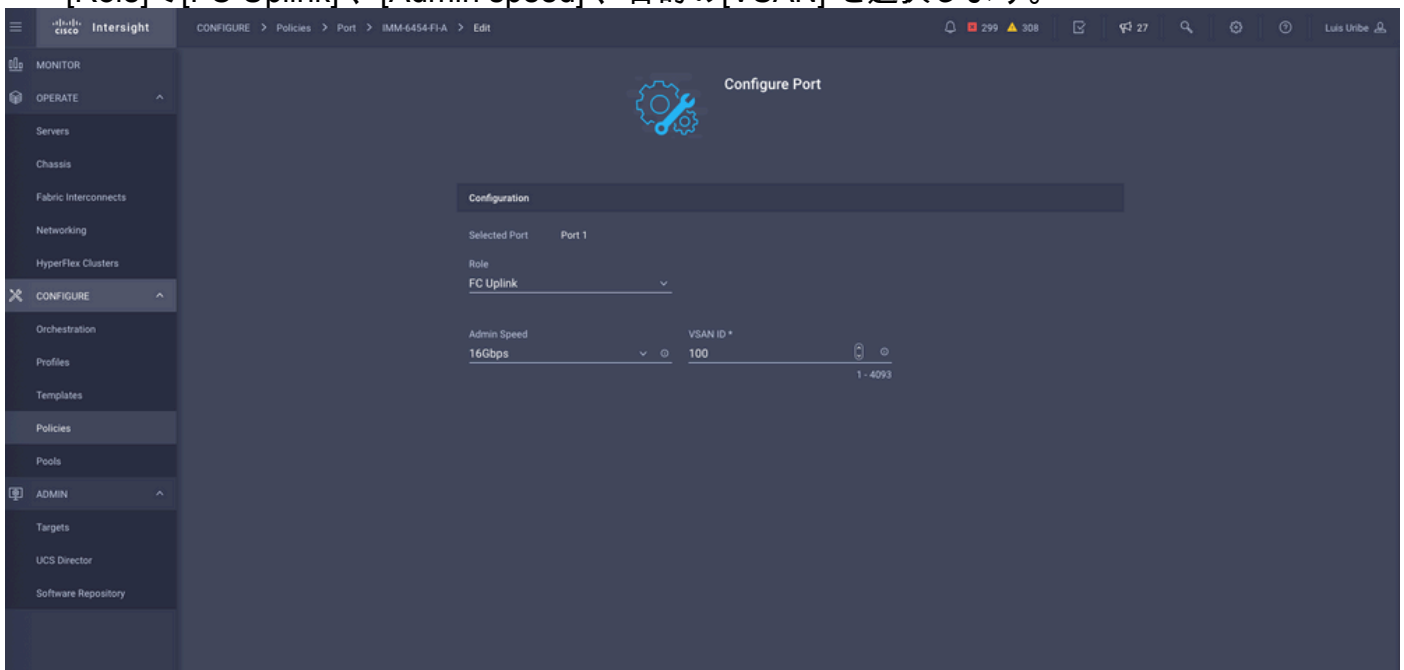
なります。この設定では必須ではありません。

## ステップ2：ポートポリシーを設定します。

- [Policies] > [Create Policy] に移動し、[Port] を選択します。
- [Name] を入力し、リストから[Switch model] を選択します。完了したら、ユニファイドポートを設定します。
- [Port roles] に移動し、FCアップリンクに必要なポートを選択して、[Configure] をクリックします。



- [Role]で[FC Uplink]、[Admin speed]、目的の[VSAN]を選択します。

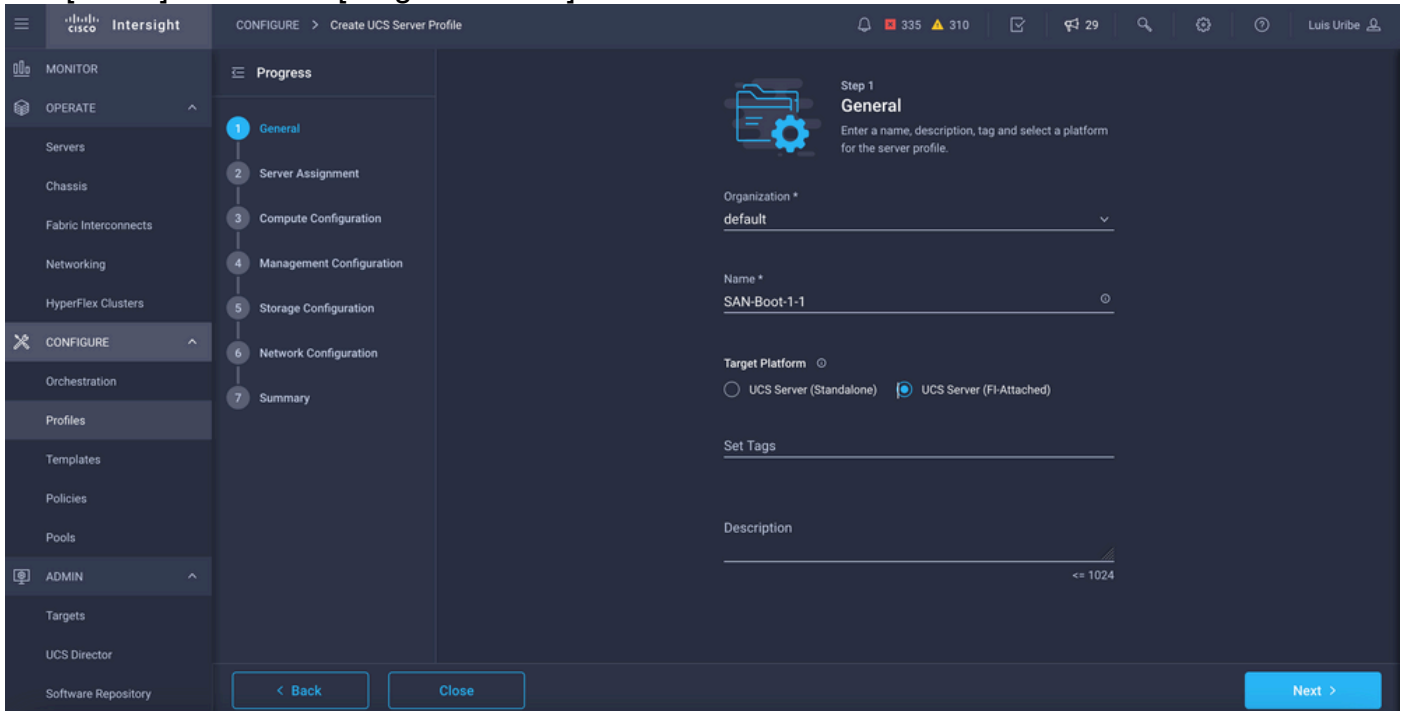


- ドメインプロファイルにポリシーを追加できます。[Profiles] > [UCS Domain Profiles] > [Edit Domain profile] (プロファイルがすでに存在する場合) または[Create] ドメインプロファイルに移動し、必要なポリシーをドメインプロファイルに追加します。

## サーバプロファイル

ステップ3：サーバプロファイルを作成します。

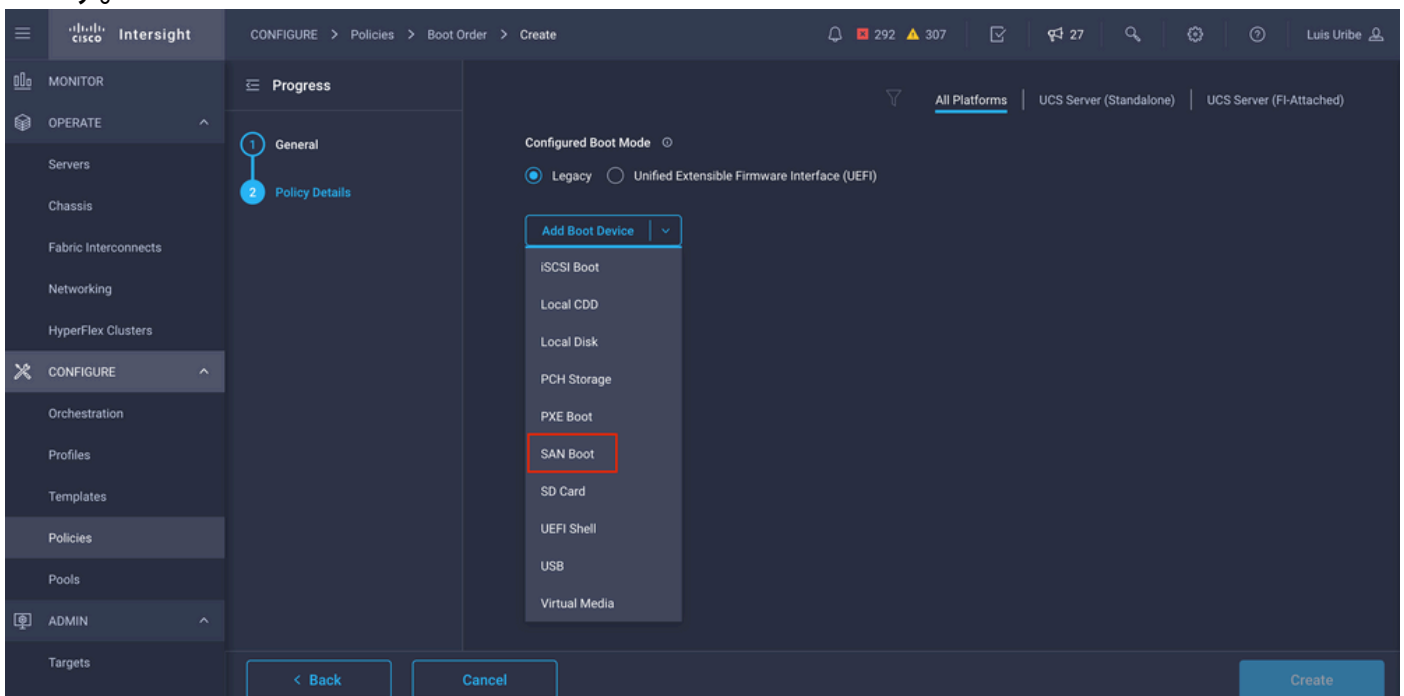
- [Policies] > [Create UCS Server Profile] に移動します。
- [Name] を入力し、[Target Platform] を選択します。



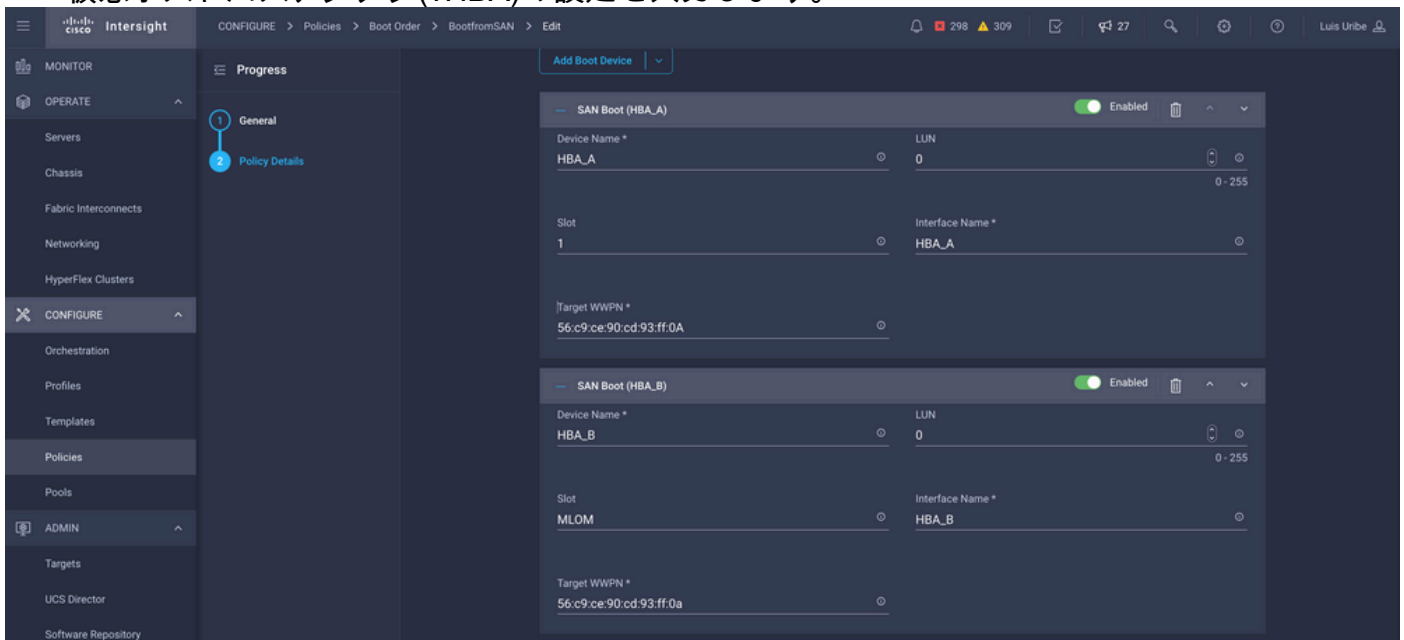
- [Compute Configuration] で、ブートSANオプションが設定されているブート順序ポリシーを追加します。

ステップ4：ブート順序ポリシーの作成

- ブートポリシーに名前を付け、ドロップダウンリストからSANブートオプションを追加します。



- 仮想ホストバスアダプタ(vHBA)の設定を入力します。

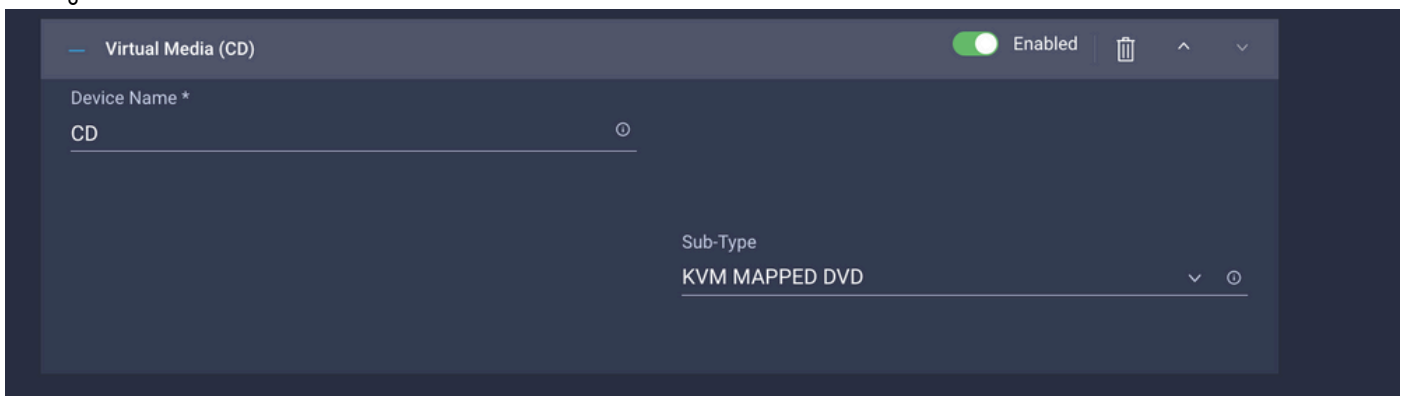


[Device Name] は、ポリシーで参照する名前です。

物理ストレージまたは仮想ストレージのLUN識別子。

Slotはスロットアダプタとポートです。この例は、Modular Lan on Motherboard(MLOM)です。

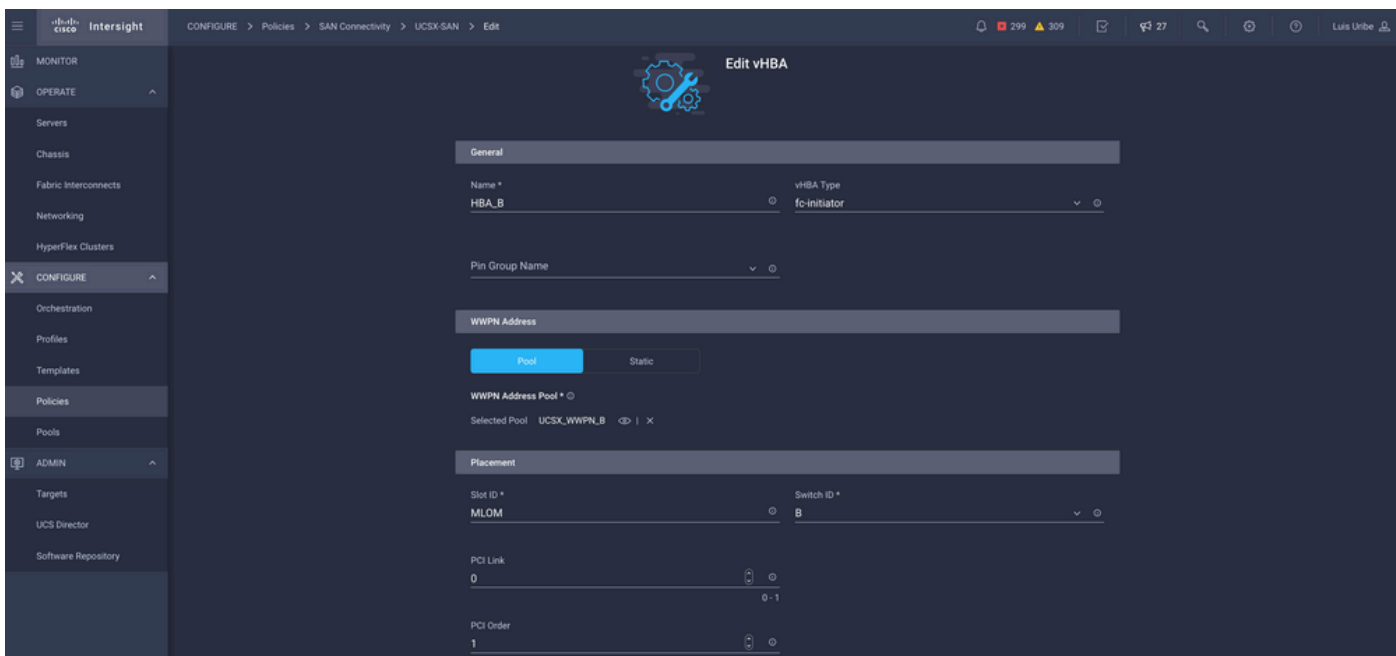
- サーバのインベントリのスロットは、[Servers] タブ> [Select server] > [Inventory] > [Network Adapter] > [Adapter ID]で確認できます。
- KVMを介してisoをインストールするために、追加の仮想メディアオプションを追加できます。



- 必要に応じて、コンピューティング構成、管理構成、およびストレージ構成に追加のポリシーを追加します (オプション)。

## ステップ5:SAN接続ポリシーを作成します。

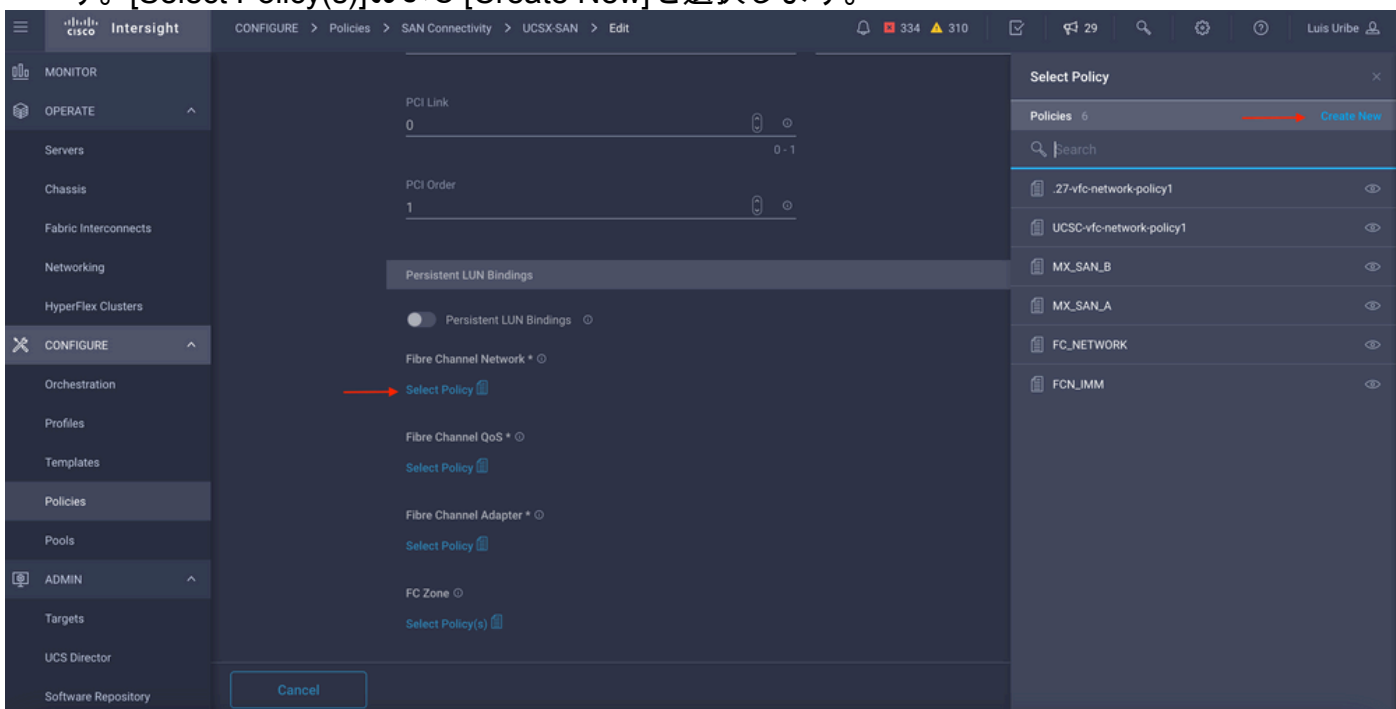
- ポリシーに名前を付け、WWNN (プールまたはスタティック) を追加してから、vHBAを追加します。



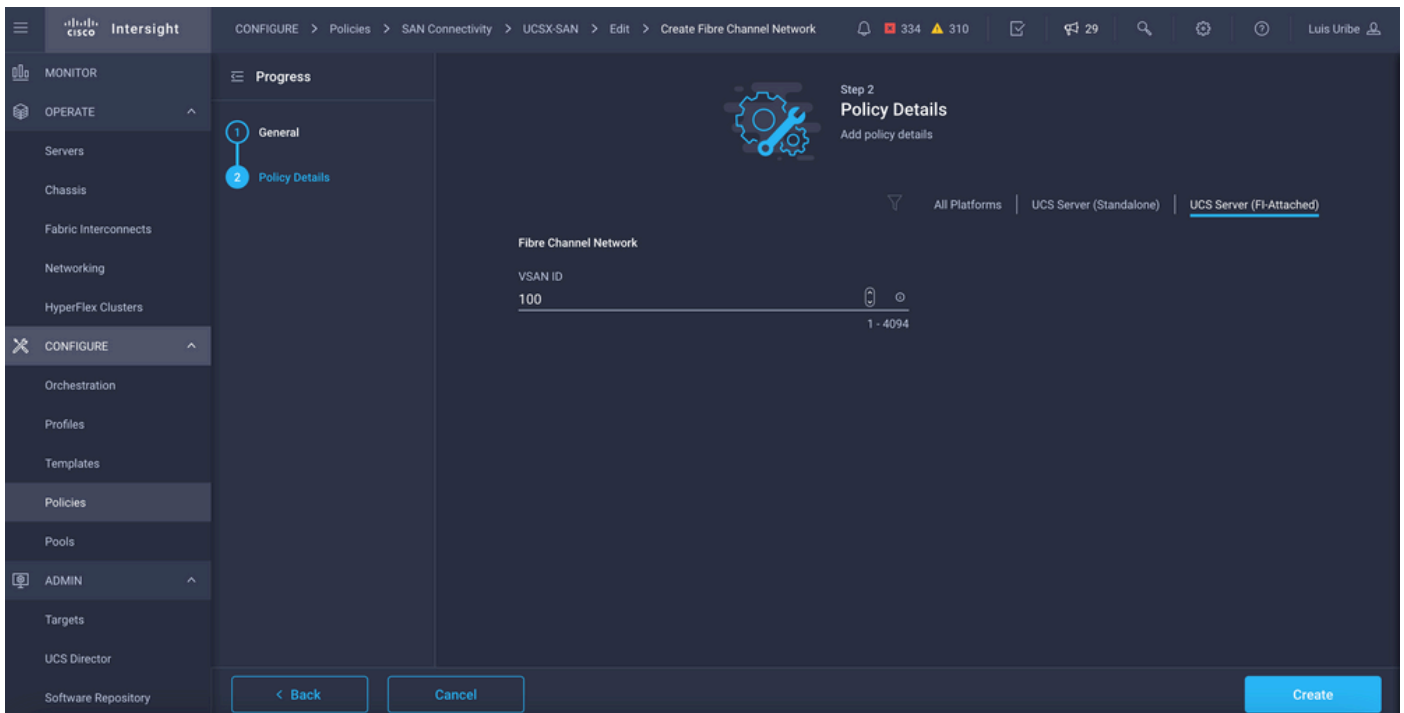
注：vHBA名は、以前に設定されたものと同じである必要があります。

#### 手順6：ファイバチャネルネットワークポリシーを作成する。

- VSANをvHBAに割り当て、SANから起動するには、ファイバチャネルネットワークが必要です。[Select Policy(s)]および[Create New]を選択します。



- 必要なVSANを設定します。



注：VHBA設定の残りのポリシーは、SANからのブートに必須ではありません。

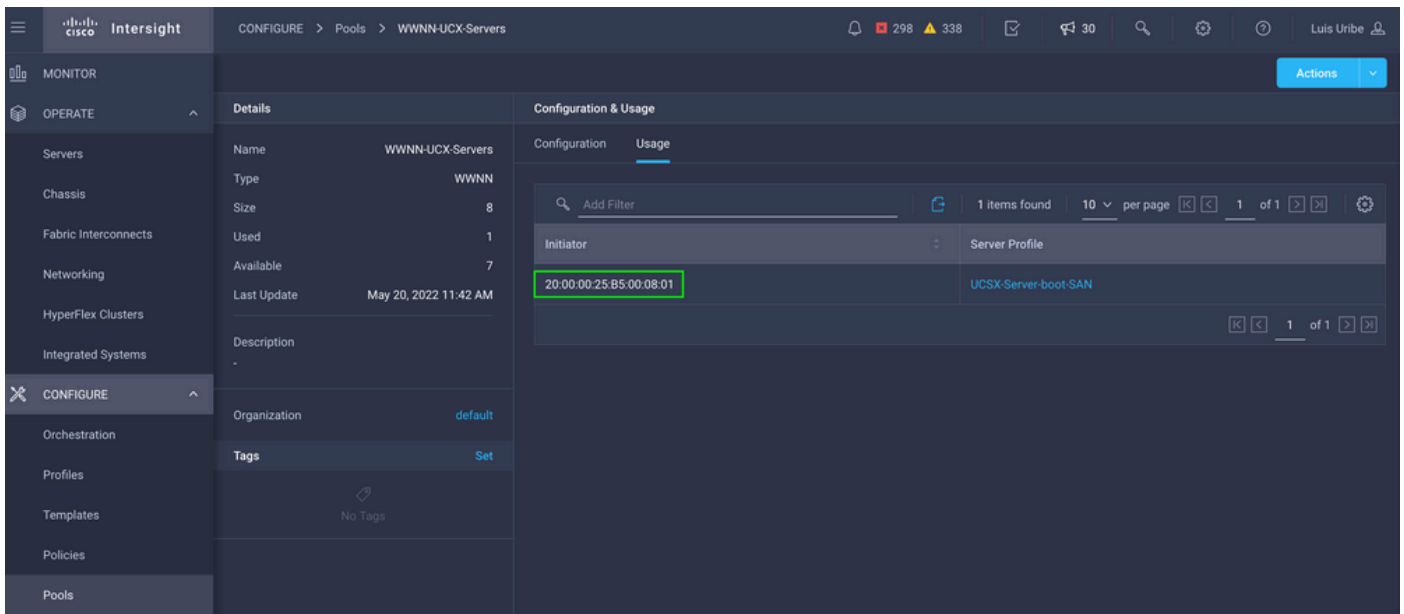
- 追加のvHBAを追加して、SAN接続ポリシーの構成を完了します（オプション）。
- ホストとストレージ・デバイス間のアクセス・コントロールのためにストレージ・スイッチでの構成（ゾーニングとも呼ばれる）が行われれば、サーバ・プロファイルのためのSAN構成は完了です。サーバの起動プロセス中は、ターゲットがKVMを介して表示されます。
- LAN接続ポリシーを追加して、仮想ネットワークインターフェイスカード(vNIC)を設定します。

## 確認

SAN構成を確認するには、作成したプールとポリシーに移動します。この情報は[Server Profile]には表示されません。

WWPNの場合：

- [Pools] に移動し、作成された[WWPN Pool] を探して、[usage]タブをクリックします。使用中のWWPNと、そのWWPNを使用しているサーバプロファイルが表示されます。



ブートプロセスの場合：

- ターゲットWWPNは、サーバの起動プロセス中に表示されます。

## トラブルシューティング

サーバのブートプロセス中にF6キーを押します。これにより初期化が中断され、サーバがブートメニューに移動します。ここでアダプタに接続し、コマンドを入力して接続を確認します。

いずれかのファブリックインターコネクティブIPアドレスへのSSHセッションを開き、次のコマンドを実行します。

```
FI-A # connect adapter x/y/z          -> (x = Chassis, y = Blade, z = Adapter)
```

```
Entering character mode
Escape character is '^['.
```

```
(none) login: dbgsh
```

```
adapter (top):2# attach-fls
adapter (fls):1# lunlist
```

```
lunlist
```

```
vnic : 16 lifid: 16
```

- FLOGI State : flogi est (fc\_id 0x010303)
- PLOGI Sessions
- WWNN 58:cc:f0:98:49:62:0b:fa WWPN 58:cc:f0:98:49:62:0b:fa **fc\_id 0x000000**
- LUN's configured (SCSI Type, Version, Vendor, Serial No.)

```
LUN ID : 0x0000000000000000 access failure
```

- REPORT LUNs Query Response
- WWNN 58:cc:f0:90:49:62:0b:fa WWPN 58:cc:f0:90:49:62:0b:fa **fc\_id 0x000000**
- LUN's configured (SCSI Type, Version, Vendor, Serial No.)

```
LUN ID : 0x0000000000000000 access failure
```

- REPORT LUNs Query Response
- Nameserver Query Response



vnic : 17 lifid: 17

- FLOGI State : flogi est (fc\_id 0x010303)
- PLOGI Sessions
- WWNN 58:cc:f0:90:49:63:0b:fa WWPN 58:cc:f0:90:49:63:0b:fa **fc\_id 0x000000**
- LUN's configured (SCSI Type, Version, Vendor, Serial No.)

LUN ID : **0x0000000000000000 access failure**

- REPORT LUNs Query Response
- WWNN 58:cc:f0:98:49:63:0b:fa WWPN 58:cc:f0:98:49:63:0b:fa **fc\_id 0x000000**
- LUN's configured (SCSI Type, Version, Vendor, Serial No.)

LUN ID : **0x0000000000000000 access failure**

- REPORT LUNs Query Response
- Nameserver Query Response

ヒント : この例のようにfc\_idが0x0000に等しい場合は、ファイバ・スイッチのゾーニング構成とストレージ・アレイのLUNマスキングを確認します。ストレージアレイでイニシエータのWWPNが正しく構成されていることを確認します。

## 関連情報

[SANブートおよびSAN接続の問題のトラブルシューティング](#)

[ドメインプロファイルの設定](#)

[サーバプロファイルの設定](#)

[テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。